

< 認知症対応型共同生活介護用

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4677700116
法人名	アール・エイチカンパニー有限会社
事業所名	高齢者 グループホーム ゆうとみい
訪問調査日	平成 20 年 9 月 30 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 28 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4677700116		
法人名	アール・エイチカンパニー 有限会社		
事業所名	高齢者 グループホーム ゆうとみい		
所在地 (電話番号)	鹿児島県肝属郡南大隈町根占山本2547-1 (電話) 0994-28-1755		
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成20年9月30日	評価確定日	平成20年10月28日

【情報提供票より】20年8月22日)事業所記入

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 2 月 6 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14人	常勤	12 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 13, 1

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋作り一部二階建て	造り
	階建ての,	2 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	光熱費) 10,500円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4)利用者の概要(8月22日現在)

利用者人数	13 名	男性	0 名	女性	13 名
要介護1	6 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87, 4 歳	最低	69 歳	最高	99 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	じょうさいクリニック・肝属郡医師会立病院・坂本歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかな田園風景が広がる自然豊かな地に「ゆうとみい」が建てられている。春は山菜を取りに行ったり、梅や杏を漬けたり、秋には栗を拾ったり、ゆっくりとのんびりと残されたちからを活かし自分らしく暮らせるように支援している。看護師が職員として勤務していること、同系列の医療機関との24時間医療連携がなされており、利用者や家族にとって安心して過ごせるホームである。最後はここでという家族の要望に答え開設以来4名の方を看取ってきている。また、地域との交流も少しずつ広がり今年には夏祭りを事業所主催で行い、多くの住民の方が参加され、利用者も全員浴衣を着て参加し楽しいひと時を過ごすことができ、これからは地域の発信地となれるようにと考えている。これからの取り組みが期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価結果について職員に伝え話し合い、改善に向けて取り組みも行われているが記録を残していないので、今後は継続的な取り組みの記録を残されることを希望します。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価についてはミーティングで項目ごとに管理者と職員で話し合い意見をまとめ上げている。職員の今までのケアについての振り返る機会となり、もう一度利用者のペースにあわせたケアについて考える機会になっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	平成19年8月、10月、平成20年1月、4月、7月と今までに5回、自治会長、民生委員、町役場職員、家族代表、施設長、管理者が参加して運営推進会議が開かれている。事業所の活動内容の報告をし地域の行事の情報を得たりしている。地域代表からホームの場所を使って夏祭りを住民と一緒にしてはどうかという意見があがり、8月末に事業所主催の夏祭りをを行い大勢の地域の方々が参加され、利用者も全員浴衣を着て参加するなど地域との交流を深める取り組みを行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情の窓口相談職員を配置していることは家族に説明している。意見や相談については家族会や運営推進会議、面会時に把握し内容については職員間で共有し、運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	夏祭りでは地域の方と一緒に根占太鼓の演奏を聞いたり、老人クラブ主催のスポーツ大会に参加したり、中学校の職場体験を受け入れたりと積極的に地域との交流を行っている。また、近所の方から野菜をもらったり、一緒にお茶を飲んだり、ホームの前の田んぼをコスモス畑にして利用者を楽しませてくれるなど、近所からも受け入れられて交流を深めている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくりとそしてのんびりと馴染みの深い環境の中で残された力を生かし自分らしくあらゆる面で不安のない生活を目標とします」という運営理念を掲げ、理念をケアの中心に置いている。		馴染みの深い環境という文言が地域という意味合いになるが、もう一度地域密着型サービスとしての理念について、職員と話し合い事業所独自の理念を作られることを希望します。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員はケアの中心にある理念を共有しており、利用者のペースに合わせた支援を実施している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りに地域の方を呼んで実施したり、老人クラブ主催のスポーツ大会に参加したり、町の運動会に参加したり、中学校の職場体験を受け入れたりと積極的に交流している。また、近くの公民館まで散歩に行くと近所の方々が集まってお話ししながら交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果については職員に伝えられ改善に向けた話し合いも行われているが、継続した取り組みまでは行われていない。自己評価については、管理者は職員と話し合い意見をまとめあげている。		評価結果についての話し合いは行われているが記録として残されておらず、改善に向けた継続的な取り組みの記録を残されることを希望します。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年度より今までに5回、自治会長、民生委員、町職員、家族代表、施設長、管理者が参加して運営推進会議を実施している。事業所の活動状況、自己評価についてなど報告し、地域の行事予定の情報を得ている。参加者から地域住民と一緒に夏祭りを行ったらどうかという提案を受け、8月末に実施するに至っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町職員が推進会議に出席してもらえるようになったので、包括支援センターへも引き続き参加を促している。行政へ疑問点などの質問をするが返答がなく、引き続き働きかけを行なっている。		事業を行なっていく上で生じる運営やサービスの課題は、市町村担当者と協議しながら解決していかねばならないことが多々あります。あきらめずに事業所から働きかけを行ない、サービスの質の向上につながるようになることを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の請求書送付時に日々の様子を綴った「ゆうとみいだより」や誕生会での個々の写真などを同封している。面会時には健康状態や日頃の様子などを報告し、個々に記入している金銭出納長に家族のサインをもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回開かれる家族会や運営推進会議、面会時に意見を頂けるように配慮している。家族からの意見は連絡帳に記載し職員間で共有し、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員は2ヶ月程度担当者をつけて指導しており、夜勤についても3ヶ月ぐらいの余裕を見ながら行なっている。職員は日頃からユニット間を行き来し利用者と同様馴染みの関係を築けるようにいつでも声かけすることに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については職員が交替で参加している。研修後は報告書を提出し、ケア会議で報告し全員で共有している。		事業所内での研修を継続的に行なうための年間計画を立て、職員のスキルアップにつながるように努めていかれることを希望します。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隈地区グループホーム連絡協議会に加入し勉強会に参加している。また、管理者が良いと思われるホームに見学に行ったり他のホームが主催して行なっている勉強会に参加し、サービスの質を向上させるよう取り組んでいる。		勉強会への参加など積極的に行なっているため、今後は他の事業所と職員間での相互訪問を実現することで更なるサービスの質の向上に取り組まれることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族が見学に来て決定される方もいるが、体験入居をしてもらっている。入居後職員は利用者に寄り添い、家族との連絡を密にしながら安心して生活できるように支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者が昔行っていたそば打ちや干し大根作り、梅干作りを教えてもらいながら一緒に行ったり、言葉遣いや礼儀作法についても教えてもらうことが多く職員が感謝を伝えると笑顔が返ってくるなどお互い支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日頃の会話の中から本人の希望を聞くこともあるが、生活暦や家族から確認したり、近所の方から情報を得ることもある。思いの把握が困難な方は家族とよく話し合っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員の気づきを記録するようにノートを作成しており、ケア会議では利用者一人ひとりを見つめたカンファレンスを行なっている。介護計画は本人、家族、かかりつけ医、職員の意見を反映した計画書になっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>職員が介護計画の長期目標、短期目標、サービス内容が一目でわかるように事業所独自の書式で作成しケアに活かしている。見直しは期間に応じて行なっているが、緊急に変化が生じた場合にはその都度見直しを行なっている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	9月より医療連携体制加算の指定を受けており、24時間の健康管理がなされている。家族の要望があれば病院受診にも付き添い、墓参りにも同行し臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	専門的疾患の病院受診に家族の協力が得られないときには職員が同行受診している。受診内容については家族に電話で報告し職員も共有している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応については事業所では行なえないことを入居時に説明していたが、最後はここでという家族の要望が強く、家族、主治医、管理者と話し合い方針を共有しながら今までに4人の看取りを行なってきた。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録物や個人写真等個人情報の取り扱いについては、注意を払っている。プライバシーを損ねるような声かけはしないように職員には指導しているが、気になった場合にはその都度指導するようにしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が主体となって生活できるように利用者のペースに合わせて支援している。情緒の不安定な様子が見られる利用者には、職員が安定するまで寄り添い自分のしたいことをしてもらおうようにしている。散歩や買い物に行ったり、作った梅酒を飲んだり希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量に応じて、野菜の下ごしらえ、ランチョンマットや箸をならべる、テーブル拭きなどを行なっている。職員と同じテーブルを囲み談笑しながら食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回の入浴を予定している。入浴のないときには足浴やシャワーを行っている。入浴の順番は本人の希望を聞き入れて行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日リハビリ体操をしたり、歌を歌ったり、風船バレーをしたりとレクリエーションを実施している。誕生会や敬老会、マジックショーのボランティアなどがあり、利用者も得意の三味線や踊りで参加し楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候を見て花見に出かけたり、お弁当を作ってピクニックに行ったり、ドライブや散歩、庭の花の手入れや花壇の草取りをしたりといつでも希望にそって戸外に出られるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない。外出傾向にある利用者の把握がされているため、職員は後からついていながら見守りをしている。近隣の方にも情報を提供しているので外出した場合にはすぐ情報を得ることが出来る。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行なうことになっており、消防署指導の下に消火訓練を行い、夜間想定避難訓練も行っている。地域の方にも協力をお願いしている。緊急時マニュアル、連絡網については職員が見やすい所に掲示してある。		職員が自信をもって誘導していく為にも事業所での夜間想定、地震想定、の自主訓練と非常食の備蓄について検討されることを希望します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量、水分摂取量については記録し職員が共有している。献立については法人内の栄養士にバランスをチェックしてもらっている。水分量は1500ccを目安にし、足りていないときにはお茶やカルピス、牛乳、果物等好きなもので摂ってもらうように配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入り口には季節の花が植えられたプランターが並んでいる。縫製工場を改装しているにでそれぞれのユニットで趣が違い、畳の間があったり、大きな水槽に熱帯魚が泳いでいたり、壁には利用者と一緒に作った壁飾りが掛けてある。窓からは田んぼが見渡せ季節の移ろいを感じることができる。利用者はソファや椅子の思い思いの場所で過ごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のベットとタンスは備え付けだが他は利用者の馴染みの物を持ってきている。家族の写真や趣味の三味線などで居心地よく過ごせるようにしている。		